自衛隊栃木地方協力本部

令和５年度　真岡市自衛隊家族会講演会開催
～栃木県自衛隊家族会長による家族会の活動についての講話～

自衛隊栃木地方協力本部　真岡募集案内所（所長　麦倉准陸尉）は、1月19日（金）、真岡市自衛隊家族会（会長　植木　親久氏）主催による真岡市青年女性会館にて開催された『令和５年度真岡市自衛隊家族会講演会』支援を実施した。

今回の講演会は、栃木県自衛隊家族会長（古橋一男氏）が「家族会の活動について」をテーマに約60分間、真岡市自衛隊家族会10名に対して行った。

講話では、自衛隊家族会で定められている会員日々の心掛けの「信条」についての再確認と、自衛隊の活動範囲の広がりに伴い、任務遂行される隊員及びその家族が抱える悩み事への具体的なフォロー事例などを紹介した。

古橋会長は、「自衛隊家族会は、隊員の家族同士の情報交換や交流が図れ、自衛隊への理解をより深めることができる後援団体ではあるものの、昨今の時代性、家族編成及び地域交流の変化から家族会員同士の活動や交流にも変化が生じてきているが、『自衛隊員家族が支え合い、絆を深める場である』という信条は揺らぐことなく、今後も自衛隊員とその家族の支援を行っていく。多様化する自衛隊の任務では、転居や配属の都度新たな地域や環境に適応することが求められ、その際には家族会員同士の情報や経験を共有することで生活環境整備等の支援にあたっており、具体的な一例として、訓練や災害派遣時に家族が一緒に暮らせない場合に残された家族の安否確認やフォロー支援などが挙げられる」と説明した。聴講者からは「会員には元自衛官も多く、自衛隊の組織編成や任務内容を深くご理解している方からのアドバイスは大変参考になる」との感想が聞かれた。

真岡募集案内所は「今後も、積極的に家族会の活動支援に取り組んでいき家族会の諸活動を通じた会員同士の交流を通じ、隊員・ご家族の様々な不安や悩みを解決できる糸口となるように日々業務に邁進してゆく」としている。

～栃木県自衛隊家族会長による家族会の活動についての講話～

栃木県市貝町自衛隊家族会・新町駐屯地部隊見学を実施
～即応予備自衛官の自衛隊再入隊志願にも繋がる研修成果～

自衛隊栃木地方協力本部真岡募集案内所（所長　麦倉准陸尉）は、1月22日（月）、市貝町自衛隊家族会（会長　小堀　豊次氏）14名の陸上自衛隊新町駐屯地（群馬県高崎市）の部隊見学支援を行った。

今回の部隊見学は、自衛隊部隊の任務や生活について現地で学び、さらに会員同士の懇親をより深めることを目的に計画された。

新町駐屯地に駐屯する陸上自衛隊第12旅団隷下の第12後方支援隊は、1月1日に発生した能登半島地震の被災地救援活動にあたっていることもあり、活動の妨げにならないよう配慮をしながら部隊見学に臨んだ。

駐屯地到着後は、広報担当者から新町駐屯地の編成及び部隊活動説明のほか、能登半島地震の被災地救援活動について1月1日発生時から現在に至るまでの自衛隊活動状況を時間経過に沿って写真画像を用いて説明を受けた。　また、5，000ℓの水を運べる3t／2t水タンク車や水トレーラー及び野外入浴セット等の装備品を活用した被災地での給水や入浴支援活動並びに、災害時における自衛隊保有車両装備品の支援能力についても説明を受けた。参加者は「自衛隊の災害派遣活動が、被災された皆様の生活の支えとなるとともに速やかなライフ来の復旧がされるよう心から願っております」「平素からの訓練は、災害時の対応能力を高めるためにも重要ですね」と話していた。

今回の研修には、即応予備自衛官とそのご両親の参加があり、見学終了後に即応予備自衛官本人より、自衛隊再入隊の志願申し入れがあった。部隊で真摯に業務に向き合う隊員たちの姿が、再入隊への意欲を大きくする動機に繋がった。

真岡募集案内所は「今後も、部隊研修等の機会を通じて自衛隊活動への認識と理解の醸成に繋げるとともに、災害に備える自衛隊の取り組み、訓練する隊員の姿、被災地での支援活動内容等の発信も含めて募集活動に繋げていく」としている。

市貝町自衛隊家族会集合写真

移動車内での地区会長挨拶の様子

広報担当者からの説明

喫食体験の様子